

平成 25 年度 石川県教育工学研究大会 大会要項 自由研究発表アブストラクト集

主催 石川県教育工学研究会・金沢大学人間社会学域教育学類附属教育実践支援センター

- 1 開催日 平成 26 年 3 月 2 日 (日)
- 2 会場 金沢大学人間社会学域教育学類附属教育実践支援センター 2 階  
(〒920-1192 金沢市角間町 TEL076-264-5588 <http://center.ed.kanazawa-u.ac.jp/> )

3 日程

受 付	挨 拶	(1)自由研究発表会	[昼食] 理事会 12:20~13:20	(2)全体会・学習会 実践発表から実践研究へ ～実践から研究に高めるために～
9:30	9:55 10:00	12:10	13:30	16:00

4 内容

(1) 自由研究発表会 10:00~12:10

座長 佐藤幸江 (金沢星稷大学) ・清水和久 (金沢星稷大学)

1) 相手が納得するように説明することが出来る児童の育成に関する手立ての考察 10:00~10:20

福田 晃(金沢市立十一屋小学校)

本学級では学習班を2つに分け、異なる観点について調べたことを伝え合うという学習形態を多く取り入れている。だが、意欲はあるものの、他者が納得するような説明をできない児童が多い。そこで、「相手が納得するように説明できる児童を育成すること」と目的とし、育成のために筆者が取った4つの手立て「発表する内容を厳選する」「根拠を示す際にタブレット端末を活用する」「聞き手が意識すべき点を確認する」「まとめの型を事前に示す」についての考察を行った。

2) 協働学習を活性化するためのメディア活用の実践と評価 10:20~10:40

室本 眞希(金沢市立小坂小学校)

小林 祐紀(金沢市立小坂小学校)

村井万寿夫(金沢星稷大学)

協働学習を活性化するために、協働学習の目的や学習形態に合わせたメディアを選択・活用する授業を計画・実施した。4つの授業実施後に授業評価を行うとともに、選択・活用したメディアの有用性について考察した結果、「コミュニケーションを促進させること」「子どもの思考を可視化できること」「学習のねらいに沿った議論ができること」の3点において、選択したメディアが協働学習を活性化させるとの示唆を得ることができた。

3) 国際交流学習を通して育成する伝え合う力の実践的研究 10:40~11:00

西野 聡子(金沢市立浅野川小学校)

学習に意欲的に取り組むことが難しく、クラス間の関わりが弱い児童を対象に、思いや考えを伝え合う指導計画の元で、関わることを重視した話し合い活動の工夫や外国の同世代との交流学習を行う。それらの学習活動により、学ぶ目的や学んだことを伝える相手意識を持ち、学ぶ意欲と学習した内容をふり返り理解しようとする姿が育った。また、外国の交流相手に自分達の学んだことを伝えるために、児童同士が関わり合い、認め合いながら伝え合う姿が見られ、一人一人が自己存在感や有用感をもち、自信を持って学ぶ姿が育った。

#### 4) ソフトバレーボール学習時に動きを見直す場面におけるタブレット端末の活用分類 11:10～11:30

小林 祐紀(金沢市立小坂小学校)

本研究の目的は、ソフトバレーボール学習時に動きを見直す場面において、学習者がタブレット端末をどのように活用するのかを調査し、分類して整理することである。授業を実施し、タブレット端末を活用した場面を分類した結果、その活用は次の5つに分類することができた。(1)撮影したビデオを再生しながら技能や動きの改善を話し合う(2)画面を見せながら途中で止めて技能や動きの改善を話し合う(3)ホワイトボードと共用しながら技能や動きの改善を話し合う(4)撮影したビデオを視聴してから技能や動きの改善を話し合う(5)タブレット端末に直接書き込みしながら技能や動きの改善を話し合う

#### 5) 児童が取り組む説明的な動画の制作にあたっての一考察 11:30～11:50

～「食べ物へんしんクッキング」の動画制作を通して～

飯田 淳一(内灘町立清湖小学校)

太田 有美(ベネッセコーポレーション)

これまで、児童が使える学校の備品としてビデオカメラの台数をそろえることは難しく、児童がビデオカメラを用いて撮影したり作品を作ったりすることは、なかなか実現しなかった。しかし、タブレットPCの導入により録画機能を使って、児童が簡単に動画撮影を行うことができるようになってきた。そこで、国語科の説明的文章を書く学習の発展として説明的な動画作品を作ることに取り組んだ。児童がグループで動画作品の制作に取り組むとき、「食べ物へんしんクッキング」として食品の作り方の説明を行うのは適切か、そのためにどんな手だてが大切なのか、実践を踏まえて考察した。

#### 6) タブレット端末と電子黒板を連動させた協働学習による児童の変容』 11:50～12:10

～5年国語科「天気を予想する」・6年算数科「場合を順序よく整理して」の実践～

田口 優(七尾市立小丸山小学校)

谷口 真也(七尾市立小丸山小学校)

授業におけるタブレット端末と電子黒板の活用は、児童にどのような影響を与えるのだろうか。本稿は、2つの実践を通して、タブレット端末と電子黒板を連動させた授業が児童にどのような変容、学びをもたらすのかを明らかにすることを目的としたものである。5年生国語科・6年生算数科の実践から、それぞれの教科特性に応じたタブレット端末と電子黒板の活用の視点について考察する。

### (2) 全体会・学習会 13:30～16:00

テーマ：「実践発表から実践研究へ ～実践から研究に高めるために～」

会場：教育実践支援センター2階 教育実践研究室

コーディネータ： 清水和久 (金沢星稷大学)

「実践から研究に高めるために」ということは、一体どういうことなのか、なかなか誰も見えない部分であります。

当会には、実践者から研究者になった先生方、長年実践を積み重ねてきた先生方がたくさんいます。経験豊かな先生方にご登壇いただき、実践発表と実践研究の違いについてや、研究論文の書き方など、座談会形式でうかがい、4月を迎える前に再度、確認したいと思います。